

府立中津支援学校 令和4年度「学校運営協議会」議事録（第3回）

日時	令和5年1月27日（金）10:00～12:15			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	川田 和子	大和大学教育学部 准教授	奥井 光司	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	人見 光彦	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会 会長	水迫 英紀	事務長
	中塚磨由美	新梅田シティライオンズクラブ	入福濱 光	首席兼小学部主事
	園田 葉子	大阪音楽大学 教授	宇賀 功二	首席兼中学部主事
	梅谷 通代	中津保育園 園長	富田 絵梨香	進路指導主事
			小篠 仁志	研究部長
			齋藤 賢司	自立活動部長
傍聴人				
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度学校経営計画の評価について ・ 学校教育自己診断アンケートの結果と分析について ・ 令和5年度学校経営計画（案）について 他 			
協議内容の 概略 及び 提言内容・ 改善方策	<p>1. 令和4年度 学校経営計画の評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2－（2）イ、ウ 今年度冊子化（令和2～3年度分）したものは、11月に実施した第2回学校運営協議会で配付した。中津支援学校 HP からもコンテンツの確認が可能。冊子化された以降のコンテンツについては、随時 HP にて公開していく。 デジタル絵本や動画、各種プリント（pdf等）は、着々と増えていっている。GIGA スクール構想の一人一台端末（iPad）を持ち帰り、児童生徒が家庭（大阪整肢学院）で見られるようにしたい。 ・ 3－（2）ア、イ 本校の高等部3年生の一人が企業の内定をもらった。本人にとっては、ここからがスタートとなる。4月からは、大阪整肢学院を退所して生活と仕事の両面において新たにスタートする。多々大変なことがあると思う。この先、教員が転勤等で入れ替わっても、学校が相談機関としてバックアップしていく必要がある。 委員より： 知的障がい者は雇用したことがあるが、肢体不自由者の雇用は経験がない。法人のなかには肢体不自由者を雇用している園があると聞いている。中津保育園としても、肢体不自由者を受け入れられるよう体制を整えていきたい。 ・ 4－（1）ア 委員より： 一人ひとりの先生方が力をつけていけるような取組みが多々あり、中津支援学校の教師力がアップしていていると感じる。それが大阪全体の支援教育の向上につながっていくという学校長の思いがよく伝わってきた。教職員の人材育成についても、大和大学への講師派遣を何度も実施されているが、これは、大学と支援学校との調整等、なかなか大変なことだと察するが、何度も実施されていることが素晴らしい。 → 大学との連携（大阪音大・大和大）交流活動は令和5年度も継続したい。こち 			

らから講義等に伺い講義をすることで授業力や指導力、専門性を高める。大学時代から障がいのある子と交流を進め、関わってもらい、地域の小中学校等の教員をめざしている学生の中で、支援学校で働きたいとも考える学生が増えてくれると嬉しい。

2. 学校教育自己診断

保護者・大阪整肢学院職員のみなさま方からの辛辣な意見はある。だからこそ、貴重な存在であり、貴重な意見でもある。課題を上げてくれているという思いを持ち、課題解決に向けて精進したい。本校の頑張っているところを認めてもらえるよう、どのように発信していくかが課題である。

3. 令和5年度 学校経営計画について

・ 1－(1) ア、イ (2) ア

自立活動に教科のねらいをもたせ、言葉（コミュニケーション）・数（認知）といったねらいを絞り込んで目標設定をしっかりと行い、教科化できるものについては教科化していく。小学部の授業でしてきた内容と同じ内容の授業を中学部でしていないか等、系統性を持たせる。教員の意識改革も含めて長期的に取り組んでいく予定。

・ 3－(3) イ

委員より：園でも教職員の頑張りを認めること。全ての子どもたちと教職員が同じ方向を向いて、より良くするにはどうしたらいいかということを考えることに取り組んでいきたい。定時退勤の試み等により、子どもたちの前で教職員がベストパフォーマンスを発揮できることを願っている。